



文明の興亡に学ぶ

鳥取ガス株式会社

取締役社長

児嶋祥悟

文明は有史以来、数千年にわたり、繁栄と衰亡を繰り返している。文明衰亡の原因は、外部からの侵略だけで崩壊したのではなく、内部からの自壊作用や文明病により、滅亡への道を歩む場合も多い。

軍事力と経済力と技術力で、七つの海を支配した大英帝国も、文明病が悪化し、今日に至っている。英国病は経済停滞、政治不安、財政破綻、漫性ストライキの四つに分析される。

日本は、明治維新以来約百三十年間、欧米諸国に追いつき、追い越せとばかり、厳しい生活水準に耐えながら邁進し、世界の経済大国にのし上がったが、すでに衰亡の下り坂に差し掛かっている。

『逆境に勝る教育なし』とは、英国の政治家、ベンジャミン・デイズレリーの名言である。

日本国再生の道は、欲望の飽くなき追究をやめ、『逆境』という偉大な教育者によって、『甘え』という文明病を克服する処方箋しかないのではなからうか。